

製品名: DUS2L ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10200**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	DUS2L
別名	DUS2L; DUS2; tRNA-dihydrouridine(20) synthase [NAD(P)+]-like; Up-regulated in lung cancer protein 8; URLC8; tRNA-dihydrouridine synthase 2-like; hDUS2
遺伝子 ID	54920.0
SwissProt ID	Q9NX74
免疫原	抗血清はヒト DUS2L 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 421-470

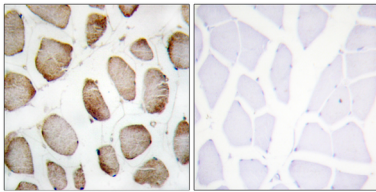
背景

ジヒドロウリジン合成酵素 2 (DUS2) Homo sapiens この遺伝子は、tRNA の D ループにおけるウリジン残基のジヒドロウリジンへ

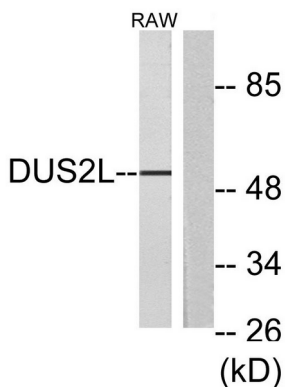
の変換を触媒する細胞質タンパク質をコードしています。結果として生じる修飾塩基は、tRNA の領域的柔軟性を高めます。コードされているタンパク質は、インターフェロン誘導性タンパク質キナーゼを阻害することで翻訳速度を上昇させる可能性があります。この遺伝子は肺癌の発生に関与していることが示唆されています。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写産物バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2012 年 11 月],補因子: FAD.,機能: ジヒドロウリジン合成酵素。ほとんどの tRNA の D ループに見られる修飾塩基であるジヒドロウリジンの合成を触媒します。 ,類似性: dus ファミリーに属します。 Dus2 サブファミリー。 ,類似性: 1つの DRBM (二本鎖 RNA 結合) ドメインを含む。 ,細胞内局在: 主に小胞体。 ,サブユニット: EPRS と相互作用する。 ,組織特異性: 心臓、胎盤、骨格筋で弱い発現を示す。ほとんどの肺がん細胞で発現が上昇する (タンパク質レベル) 。 ,

研究分野

画像データ



DUS2L 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト骨格筋組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



DUS2L 抗体を用いた RAW264.7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。